

経常収支比率の推移

○経常一般財源等（臨時財政対策債含む）(単位：千円、%)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較	
	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	増減額	増減率
地方税	11,006,083	11,206,530	11,567,980	11,342,823	12,235,860	893,037	7.9
地方譲与税	216,834	216,740	225,209	225,615	228,126	2,511	1.1
利子割交付金	9,153	8,708	7,054	8,059	26,520	18,461	229.1
配当割交付金	94,692	87,882	100,118	136,010	144,555	8,545	6.3
株式等譲渡所得割交付金	119,574	70,122	120,045	204,151	240,544	36,393	17.8
地方消費税交付金	1,970,416	2,117,223	2,101,329	2,182,457	2,356,869	174,412	8.0
ゴルフ場利用税交付金	21,112	20,237	18,000	16,285	15,670	△ 615	△ 3.8
自動車取得税交付金	-	727	2,609	-	-	-	-
自動車税環境性能割交付金	27,536	32,810	37,133	44,208	44,385	177	0.4
法人事業税交付金	88,012	115,991	131,342	145,172	154,042	8,870	6.1
地方特例交付金等	187,186	162,780	151,760	599,283	129,788	△ 469,495	△ 78.3
普通交付税	3,386,575	3,955,318	4,233,050	4,373,960	4,523,141	149,181	3.4
交通安全対策特別交付金	10,665	9,621	8,661	8,738	8,299	△ 439	△ 5.0
使用料・手数料	105,771	104,505	104,383	103,510	104,552	1,042	1.0
財産収入	3,817	2,379	2,359	2,012	2,174	162	8.1
諸収入	3,029	6,759	2,678	1,869	3,533	1,664	89.0
臨時財政対策債	1,674,700	479,100	206,300	97,100	-	△ 97,100	皆減
合 計	18,925,155	18,597,432	19,020,010	19,491,252	20,218,058	726,806	3.7

○経常経費充当一般財源等(単位：千円、%)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比較	
	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	決 算 額	増減額	増減率
人件費	4,563,333	4,713,493	4,747,921	4,948,401	5,249,116	300,715	6.1
物件費	3,455,554	3,631,176	3,685,484	3,949,173	4,149,792	200,619	5.1
維持補修費	320,929	284,702	307,658	295,295	302,160	6,865	2.3
扶助費	2,315,839	2,634,123	2,887,827	3,166,252	3,330,200	163,948	5.2
補助費等	839,858	832,515	902,058	870,726	921,957	51,231	5.9
公債費	2,126,104	2,189,622	2,347,918	2,340,121	2,428,631	88,510	3.8
投資及び出資金・貸付金	-	-	-	-	-	-	-
繰出金	2,180,455	2,242,382	2,341,021	2,460,951	2,592,043	131,092	5.3
合 計	15,802,072	16,528,013	17,219,887	18,030,919	18,973,899	942,980	5.2

○経常収支比率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
経常収支比率	83.5%	88.9%	90.5%	92.5%	93.8%
県平均	86.6%	90.5%	91.9%	92.6%	92.2%
県内順位	14位	21位	21位	26位	32位

経常収支比率 ＝（経常経費充当一般財源等）
÷（経常一般財源等＋減収補てん債特例分＋臨時財政対策債）× 100

義務的経費（人件費・扶助費・公債費の計）などの経常的な経費に対して、地方税・地方交付税等の経常的な一般財源収入がどの程度充当されているかを表す指標です。この比率が低いほど経常一般財源の残余が大きく、臨時の財政需要に対して余裕を持つことになり、財政構造が弾力的であると考えられ、比率が高いほど、財政構造の弾力性が失われつつあると考えられています。

